

スポーツ素材で通気性抜群！

石岡市オリジナル 国体ポロシャツを販売中



▲左胸にバドミントンをしている「いばラッキー」のワンポイント。背中側にはISHIOKAの文字と各デモンストレーション競技を行う「いばラッキー」がプリントされています。

価格：1着 2,300円（税込）

サイズ：XS・S・M・L・XL

カラー：ネイビー・ホワイト・ターコイズ・
トロピカルピンク・オレンジ

販売場所：

- ・ナガヤマスポーツ石岡店（東石岡）
- ・サンスポーツかみの（旭台）
- ・広瀬スポーツ（柿岡）

岡スポーツ振興課（支所）

Tel 43-1111（内線 1236）

「石岡市ってバドミントンが盛んだよね。 でも、それはどうしてなの？」

「前回の茨城国体は、1974年（昭和49年）に行われたんだけど、バドミントン競技は、石岡小学校体育館と石岡二高の体育館で行われたんだ。これをきっかけに、石岡ではバドミントンを始める子どもたちが増えたんだよ〜。

今、バドミントンのスポーツ少年団は6チーム。また石岡市体育協会に所属してバドミントンに取り組む大人のチームも7つあって、県南地区を中心に大会を主催するなど、バドミントンを盛り上げるために頑張ってるよ。2000年シドニーオリンピックに出場した井川里美さんや2008年北京オリンピックに出場した坂本修一さんも石岡市の出身。石岡市のスポーツ、バドミントン。みんな応援してね！」

いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

とき：9月28日（土）～10月8日（火）

会場：県内44市町村

いきいき茨城ゆめ大会2019

第19回全国障害者スポーツ大会 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

とき：10月12日（土）～14日（月）

会場：県内10市

石岡市の開催競技は、

バドミントン

打球は最速493km/h。「初速が最も早い球技」としてギネス認定もされているバドミントン。瞬発力と持久力のどちらも求められるスポーツです。

とき：9月29日（日）～10月2日（水）

会場：石岡運動公園（南台3-34-1）

※入場無料で全席自由です。詳しい試合日程は、9月以降に市ホームページ等でお知らせします。

運営ボランティア募集！

ハイレベルな試合を身近に見ながら、石岡市にやってくる選手や観客の皆さんをおもてなしの心で迎えましょう！申込方法などは、茨城国体石岡市実行委員会ホームページから。

対象：高校生以上

申込期限：8月31日（土）

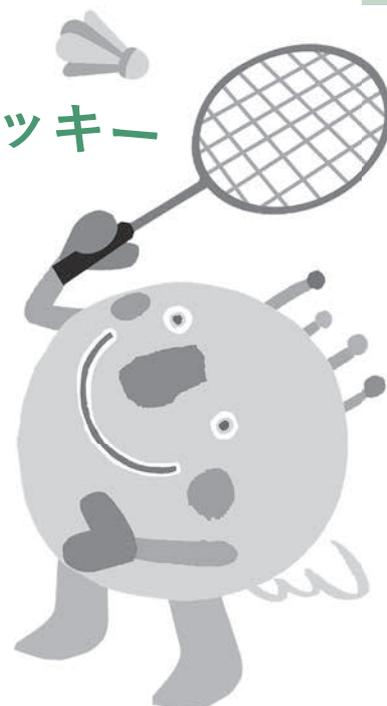


教えて、いばラッキー

いきいき茨城ゆめ国体
マスコットキャラクター
いばラッキープロフィール

幸運のエネルギーでできたラッキー星。その星のかけらが弾けて、地球の茨城にやってきた。茨城（イバラキ）は、ラッキー星と名前が似ていてずっと気になっていた。

みんなに幸運を届けることが大好き。頭にあるアンテナで幸運の届け先をいつも探しているよ。





感動

特集：いきいき茨城ゆめ国体、ゆめ大会まであと3カ月

スポーツの魅力

岡スポーツ振興課（支所） Tel 43-1111（内線 1236）

全

国47都道府県対抗のスポーツの祭典、「いきいき茨城ゆめ国体・大会」がいよいよ9月末に迫ってきました。

全国からスポーツマンが石岡市にやってくる

ゆめ国体の正式競技は、37種目。そのうちの石岡市の開催競技は、バドミントンです。種目は、少年男子・女子、成年男子・女子の4部門に分かれ、全国から選手・監督を含め400人以上が石岡市にやってきます。

ゆめ国体と同時開催される「ゆめ大会」は全国障害者スポーツ大会のことで、2000年から始まりました。正式競技は13種目で、水戸市やつくば市など県内10市を会場に行われます。

昨年の福井しあわせ元気大会では、市内在住の坂本杏さんがバタフライ部門で大会新記録を出し見事優勝を果たしたほか、福村泰子さんがフライングディスク競技で県代表として出場するなど大活躍でした。

石岡はスポーツのまち!?

国体では、正式競技に加え、幅広い年齢層の方々が参加できるように、デモンストレーション競技（デモスポ）という種目が設けられています。

石岡市のデモンストレーション競技は、トレイルラン、ハンググライダー・パラグライダー、リレーカーニバル、スポーツウエルネス吹矢、オリエンテーリングの5つ。実は5つのデモスポを行うのは、県内で最多です。

また市内の高校に通う生徒たちは、バドミントンやウエイトリフティング、弓道や空手道などでも素晴らしい成果を上げています。最近では、石岡一高野球部の甲子園出場が記憶に新しいところです。地道な練習をこつこつ積み重ねた結果、出来なかったことが出来るようになる。時に競い、時に励まし合うことで大切な仲間ができる。スポーツには無限の魅力があります。今回は、自然環境が豊かな石岡だからできるスポーツの魅力をご紹介します。

（次ページへ）



▲半田地区のボランティアの皆さん



▲「石岡のいちごは甘い!」と大喜びのランナー



国体デモンストレーション競技紹介

たった3人の練習会が 千人規模のトレイルラン大会に

舗装されていない山道という意味をもつ「トレイル」。アップダウンのある山道を駆け巡る「トレイルラン」は、この数年で愛好者がぐんぐん増えているスポーツで、石岡トレイルランクラブが主催する大会には全国から1000人以上が集まります。

八郷の山々は貴重な財産と話す山口実さん（石岡トレイルランクラブ代表）は、石岡市と八郷町が合併した平成17年、トレイルランのコースを作るため、まさに山の端から端まで歩き回っていました。「距離を測るため、ローラーの計測機をコロコロさせながら（笑）、山中を歩きましたよ」コースができたのは1年半後のこと。とはいえ、当時「トレイルラン」という競技は一般的でなかったため、最初の

練習会への参加者は、わずか3人。その上、山道走ることは想像以上に辛く、一般道を走り慣れている人でも音をあげるほどでした。

しかし、山道を登り切った先、突如視界が開け、現れた景色に心を奪われる。練習会で得られた「達成感」に手応えを感じ、一回目となるトレイルラン大会を開催したのは平成21年。参加者は166人でした。

石岡の食、風景、そして人

トレイルランで魅力を伝える「大会開催にあたっては、コースとなる地区のお宅1軒、1軒あいさつに伺い、地元の方とのコミュニケーションを大切に進めるように心掛けました」と山口さん。

トレイルランを通して、この場所の魅力を伝えたいと言

い続けた結果、今では、山の整備や選手誘導や応援、炊き出し準備など、市民を含む100人以上のボランティアが大会運営に関わります。

応援の声が聞こえる農道

大会参加者が増えていき、山口さんは平成22年に、石岡トレイルランクラブを設立。現在では、春、夏、冬の年3回、市内で大会運営を行い会員数は約500人。石岡の自然を求め、市外から多くの人たちがやってきます。

毎年4月に朝日里山学校で行われる「果物と自然の里いしおかトレイルラン大会」も12回目を迎えました。初心者でもチャレンジしやすいコースとアットホームな大会の雰囲気惹かれて、今年も過去最高となる1316人が参加しました。



<山口実さんプロフィール>

昭和28年、栃木県真岡市生まれ。35歳の時に神奈川県川崎市から石岡市に移住。「遊びは楽しく一生懸命、仕事は程々一生懸命」を社訓に掲げ、塗料の施工・販売する会社を経営する傍ら、トレイルランを筆頭にトライアスロン、水泳、トレック&ウォーキング、ゴルフなどのクラブの運営にも関わる。

ランナーもボランティアも募集中! いきいき茨城ゆめ国体 トレイルラン大会

日にち：9月15日(日)
会場：朝日里山学校（柴内630）
コース：ロングの部（約27km）
ミドルの部（約17km）
ショート部の部（約9km）



▲大会情報

申込締切：7月31日(日)
岡石岡トレイルランクラブ TEL 029-879-9810

9月の青空を見上げてみよう

いきいき茨城ゆめ国体

ハンググライダー・パラグライダー

日にち：9月7日(土) (予備日9月8日(日))

場所：八郷地区

※参加にはパイロットのライセンスが必要です。

申込締切：7月31日(日)

岡エアパーク COO Tel 44-1408

ハング・パラグライダーズスクール nasa Tel 51-3215

▼大会情報



国体デモンストレーション競技紹介

石岡市には、一年中、最高の風が吹いている

太平洋から直線距離で30km。海からの風が温められながら、筑波山系にぶつかり、山の近くでは絶えず上昇気流が起きている「八郷盆地」。三方を山に囲まれていながら、海に向かって開けているこの場所を「奇跡の地形」という人もいます。

この地形こそが、ハンググライダーやパラグライダーといったスカイスポーツのメッカといわれる由縁。

八郷地区でハンググライダーが始まったのは1980年代。パラグライダーは1990年代から始まりました。

風だけで100km先へ

クロスカントリーの聖地

「静岡や岡山などスカイスポーツが盛んな場所は全国にあります。でも年間を通じて

飛行ができ、かつ距離を飛べる場所は、ここが日本一」と話すのはパラグライダーズスクール、エアパークCOOの辻強さん。

エンジンの力を使わず、自然の風の力のみで飛び、その飛行距離を競う「クロスカントリー」という競技があります。日本で初めて100kmという長距離を出したのは、八郷地区から福島県の白河まで飛んだパイロットでした。

クロスカントリーの聖地として、南風が吹く3、4月の週末は、福島を目指して100機以上が石岡市から飛び立っています。

空飛ぶ人の共通点は、

旺盛な好奇心と抜群の行動力

「八郷盆地に吹く最高の風を求めて全国から数万人が訪

れ、スカイスポーツをきっかけに、石岡の自然に魅了され、移住した人は100人以上になるんじゃないかな」と板垣直樹さん（ハンググライダースクールnasa代表）。

「この地でスカイスポーツが始まって約40年。地元の方に受け入れてもらいながら、地道に築いてきた信頼関係があるから飛べます。子どもたちが故郷を描く絵にカラフルなパラグライダーが大空を舞っているのを見つけると、何とも嬉しい気持ちになりますね」
風に揺れる稲穂や木々の葉。そして空を舞うカラフルなハンググライダーやパラグライダー。私たちが住んでいる場所は最高の風を肌で感じ、目で楽しむことができる場所。ここには日本一の風が吹いています。

<辻強さんプロフィール>



昭和46年、石川県小松市生まれ。大学時代にパラグライダーと出会い、卒業後にスカイスポーツの発祥地ヨーロッパに修行の旅へ。帰国後、平成9年から八郷地区のパラグライダーズスクールでインストラクターとして働き始める。平成12年にはスペインワールドカップで日本人初の優勝を果たす。

<板垣直樹さんプロフィール>



昭和38年、群馬県伊勢崎市生まれ。19歳で初フライト、26歳で石岡市（当時八郷町）に移住。これまでに育成したハングフライヤー、パラフライヤーは3000人以上。自身もハンググライダー競技の選手として、数多くの世界選手権に出場。現在、世界ランキング第4位。

※次回以降の広報紙では、スポーツウエルネス吹矢とオリエンテーリング、リレーカーニバルを紹介します。